

令和のお木曳

編集発行 伊勢御遷宮委員会
 伊勢市岩淵1丁目7-17
 (伊勢商工会議所5階)
 TEL 0596-25-5215
 jimukyoku@ise-gosengu.com

お木曳行事の広報紙
 令和5年11月23日発行
創刊号



御遷代木奉曳式 外宮領陸曳・平成17年(2005)6月
 3台の奉曳車に積み込まれた御用材が、白いはっぴに身を包んだ町衆に曳かれ、神域を目指す。

伊勢に暮らす私たちの 20年に一度のよろこび

伊勢のまちにとって大きな節目となる神宮式年遷宮。
 社殿を建て替え、神様に瑞々しくいたただきたいと願う
 常若の精神は、私たち伊勢の神領民に継承されています。



外宮領 陸曳

出発直前まで降った雨がウソのよう……。2
 台の奉曳車が町を進む頃には、澄み渡る青空。
 奉曳車には、お木曳・お白石持の荷締め技術も
 伝承する意義もあり、お木、樽を積み、たわわ
 に実ったお初穂が飾られました。曳き手は伊勢
 の町衆や次世代を担う皇學館大学生、それに伊
 勢の子どもたち。木遣り唄が秋空に響く中、外
 宮までの一キロあまりの道のりを練り歩き、お
 初穂やお米を手にして外宮へ奉納、収穫への感
 謝をこめて参拝しました。



第52回 初穂曳

【はつほびき】

新穀に感謝を込め、奉曳車・初穂船で稲穂を運び、
 令和5年10月15日には800人が外宮へ、10月16日には800人が内宮へ
 それぞれ奉納。4年ぶりに通常の規模で行われました。

「民俗行事の継承と伊勢の
 祭りの創世」。この目的をもつ
 て生まれた初穂曳。「20年に
 一度では次の世代に伝えられ
 ない。せめて見るだけ、耳に
 するだけでもお木曳がどうい
 うものかを伝えることができ
 るように」と昭和47年に第一
 回目が行われました。

伊勢神宮奉仕会青年部で
 は、初穂曳により奉納するお
 米を、初穂曳関係団体の皆様
 とともに田植えから稲刈りま
 でを行い、育んでいます。



内宮領 川曳

4年ぶりに五十鈴川に歓声が響きました。初
 穂船が五十鈴川をさかのぼる川曳は、5つの地
 区が持ち回りでを行い、今年は大湊奉納団が担当。
 コロナ禍により令和2年からお初穂の奉納のみ
 となっていたため、前年の奉曳を参考とできず
 に本番を迎えましたが、子どもたちも大勢参加
 し、木遣り唄を披露。元気に出発。「エンヤ」の
 掛け声に合わせて、綱を手に時折ぶつかりながら、
 1.2キロあまりにわたって川を進み、無事内宮へ
 奉納しました。



社殿や御装束神宝の全てを一新し
 て、20年に一度行われる神宮式年遷宮。
 「建て替え続けることで、永久の建築
 物にする」という発想は、世界にも類
 を見ない持続可能な仕組みで、日本の
 木の文化を伝え、伝統技術を継承す
 る上でも大きな役割を果たしています。
 およそ1300年前に第一回の式年遷
 宮が営まれました。

社殿のご造営は御神山から木を伐り
 出すところからはじまり、ご造営のた
 めの木は「御用材」として伊勢の地へ
 運び込まれ、その運搬が行事化された
 のが「お木曳行事」です。500年以
 上の歴史があるお木曳、伊勢の神領民
 が地元でそれぞれ奉曳団をつくり、奉
 曳車やそりに御用材を載せて、両宮に
 引き入れて奉仕します。

老若男女、各世代が大勢で力を合
 わせて綱を曳く「お木曳行事」は、無
 形民俗文化財の指定を受け、20年ご
 との伊勢のまちの節目である御遷宮行
 事は、伊勢市民にとって大きなよろこ
 びとなっています。地域の連携を深め、
 日本文化にも触れる行事に、各町の奉
 曳団でご参加ください。

伊勢の地ならではの大切な伝統行
 事、そして神領民としての誇りを後世
 へつないでいきましょう。

伊勢のまち これからの遷宮年表

※一連の行事開催年は前例をもとにした予定です。

年度(西暦)	行事予定	神宮の御遷宮 諸祭
令和5年度 (2023)	お木曳行事準備 ※準備委員会設置 令和6年2月11日	
令和6年度 (2024)	※奉曳本部等結成 令和7年2月11日	
令和7年度 (2025)	浜参宮 試し曳等	山口祭、 御遷代木 奉曳式
令和8年度 (2026)	第一次お木曳行事	木造始祭
令和9年度 (2027)	第二次お木曳行事	
令和10年度 (2028)		鎮地祭
令和11年度 (2029)		宇治橋 渡始式
令和12年度 (2030)	お白石持行事準備 ※連合会結成等	
令和13年度 (2031)		
令和14年度 (2032)		立柱祭、 上棟祭など
令和15年度 (2033)	お白石持行事	遷御

次期式年遷宮で新たな ご正宮が輝く神聖な場所

外宮の参道を進み、正宮の手前に広
 大な敷地があります。ここは平成25年
 10月まで正宮が鎮座していた場所
 で、現在は「古殿地」と呼ばれています。
 内宮・外宮ともにそれぞれ東と西に
 同じ広さの敷地があり、20年ごと交互
 に社殿が造り替えられています。次
 の御遷宮の諸祭が始まると、「古殿地」
 は「新御敷地」という呼び名に。また
 正宮が鎮まる光景が、20年ごとに繰り
 返されています。



伊勢御遷宮委員会では、この伝統行
 事を継承するため、より多くの皆様
 にその大切さをお伝えするために、
 今年度より「令和のお木曳」をテー
 マに広報紙を発行していきます。